

社会復帰めざす訓練開始

家族の会が 高次脳機能障害者対象に 来月から

中丹高次脳機能障害者と家族の会「さくら」(栗野勝彦会長)は4月から、福知山市市民病院の会議室を借りて、高次脳機能障害者を対象にしたグループ訓練をする。府北部では初めての試みで、自身自身の障害に気づく力を身につけて社会復帰をめざす参加者を募っている。

7月3日から10月9日までの日曜日午後1時から同4時まで計13回、3、4人ずつのグループをつくり、訓練を続け、社会適応能力を身につける。12月18日に個別面談

をし、最終評価をして目標達成度などの確認をする。「参加者がともに活動を繰り返すことで、自ら足りない点に気づき、今よりもスムーズな社会復帰につながる」という。

参加対象となるのは社会復帰をめざす人で、話すことに障害が少なく、自身で屋内外の移動ができる(車いすでもよい)などの条件を満たす人。

申し込み、問い合わせは3月中旬に世話役代表の上原榮さん、携帯電話090・8192・3653へ。参加無料だが、訓練で調理実習をしたり、交通機関の利用などをした場合は実費がある。

同会は昨年6月、府北部へのリハビリ機関設置や支援コーディネーターの配置を要望している。上原さんは「今回、本多先生にボランティアでご指導いただけるとのことになり、市民病院が会場を無償で貸してくださるといふ協力もあり、府北部で初めて病気を発症して半年以上が過ぎた人を対象に、訓練ができる場を設けることができました。この障害を抱える人や家族にとって大きな前進です」と話している。

この障害は、交通事故や病気などで脳が複雑なダメージを受け、その後遺症で、物忘れや集中力の低下を招いたり、感情のコントロールが難しくなる、周りを気にせず自分勝手にやってしまうなど、さまざまな症状が出るという。

あきらめずに適切なリハビリを継続すれば改善し、社会復帰を果たしている人もいる。しかし同会によると、

府北部では入院中の急性期後、外来でリハビリ訓練を受けることが

できる医療機関が少なく、多くの交通費をかけて府南部まで通院する必要があるという。こうした実情を、昨夏に開いた学習会に招いた関西総合リハビリテーション専門学校、神戸大学大学院保健研究科の作業療法士、本多伸行さんに伝え、同会が訓練の講師依頼をしたところ、ボランティアで来てもらえることになった。

計画によると、4月17日に個別面談をしてそれぞれの現在の能力を評価し、目標を決め